

平成30年度 全国学力学習状況調査の結果から

1 小学校 教科別 学習状況調査結果（平均正答率(%)）

	国語A（知識）	国語B（活用）	算数A（知識）	算数B（活用）	理科
本校	72	52	65	49	60
神奈川県	70	54	64	52	60
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

2 教科学習状況調査結果より

<国語A：主として知識>

- 全国平均的な正答率となっている。無答率も少なめで、正答分布のバランスも平均的である。
- 目的に応じて必要な情報をとらえること、日常生活で使われる慣用句の理解、場面に応じた敬語の使い方についての問題は正答率が高い。
- ▲物語文を読み、情景から人物の心情をとらえること、主語と述語の関係に気を付けて正しい文を書くこと、形の似た漢字を書きわけることについての正答率が低い。

<国語B：主として活用>

- 計画的に話し合うために、司会の役割についてとらえること、目的に応じて、本や文章を選んで読むことについては全国平均を上回っている。
- ▲国語Aと比べて無答率が高くなっており、記述式の問題への苦手意識が感じられる。正答分布図を見ると、正答数の高い児童が少ない。
- ▲目的に応じた本や文章を選択することはできるが、目的に応じて自分の考えを文章にすることには苦手意識がある。必要な考えを文章にまとめていく学習を充実させていく必要がある。

<算数A：主として知識>

- 全国平均的な正答率となっている。正答分布のバランスも平均的である。
- 二つの数量関係について考える問題、円周や直径の関係について考える問題では全国平均を上回っている。
- ▲180度を超える角の大きさを求める問題の正答率がやや低い。
- ▲単位量当たりの大きさを求める除法の式と商については意味を理解できていない児童がやや多い。割合や比、比例の学習の中で意味を掴んでいけるような指導を繰り返し行っていく必要がある。

<算数B：主として活用>

- 敷き詰められた図形や並べられた数について、条件に合う答えを求める問題の正答率が高い。
- ▲正答分布図を見ると、正答数の低い児童の割合がやや高い。
- ▲図形の構成要素である角の大きさについて、それぞれの角の大きさを求め、提示された箇所の角度を説明する問題は正答率が低く、図形の角度についての復習が必要である。
- ▲図形についても、数量関係のきまりについても、答えを求めることはできるが、考え方を説明する問題についての正答率が低い。

<理科>

- 全国平均的な正答率となっている。正答分布のバランスも平均的である。中間層の正答率をさらに高められるような指導の工夫をしていきたい。
- 予想と結果を見通した実験方法を考えること、妥当な考えを作り出すために2つの異なる実験方法の結果を分析することのついて正しく考えられている児童が多い。
- ▲体のつくりや、水溶液の重さなど、目に見えない部分や事象についての概念の理解に課題がある。